



## 2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年5月11日

上場会社名 アクセルマーク株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3624 URL <https://www.axelmark.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松川 裕史  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 鈴木 啓太 (TEL) 03-5354-3351  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 四半期決算説明の動画配信を予定しております。 )  
 (百万円未満切捨て)

## 1. 2023年9月期第2四半期の業績 (2022年10月1日～2023年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,119	△14.9	△25	—	△25	—	△23	—
2022年9月期第2四半期	1,315	4.1	1	—	9	15.6	8	10.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年9月期第2四半期	△2.19		—					
2022年9月期第2四半期	0.93		0.68					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,494	927	61.6
2022年9月期	1,560	935	59.5

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 921百万円 2022年9月期 929百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	0.00			
2023年9月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年9月期の業績予想 (2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	2,500	△6.4	△203	—	△202	—	△204	—
	～3,000	～12.3	～△51		～△49		～△52	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記(4) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年9月期2Q	10,646,300株	2022年9月期	10,571,500株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年9月期2Q	33株	2022年9月期	33株
------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年9月期2Q	10,621,608株	2022年9月期2Q	9,496,731株
------------	-------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症対策から段階的な社会経済活動の正常化を進めている一方で、国際情勢等による原材料費やエネルギー費の高騰に伴うインフレ率の上昇と世界的な金融引き締め政策による金融市場の大きな変動や世界的な景気後退懸念により、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

当社が主にサービスを提供しているインターネット広告市場においては、株式会社電通が発表した「2022年 日本の広告費」によりますと、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大、ウクライナ情勢、物価高騰など国内外の様々な影響を受けつつも、社会におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の進展を背景に継続して高い成長率を保っており、2022年は前年比114.3%となる3兆912億円と拡大し、日本の総広告費全体の43.5%を占めております。今後もデジタルコンテンツの消費やeコマース(EC)の利用の拡大、インターネット接続時間の増加に伴うインターネット広告は成長していくものと見込んでおります。

また、2022年11月にOpenAIにより発表されたChatGPTをはじめとするAI(人工知能)を用いてクリエイティブな成果物を生み出すことを特徴とした「生成系AI」が、今後の技術革新として大きな注目を集めており、様々な分野での社会実装が期待されております。

このような環境の下、当社では、中長期的な事業成長のためには広告事業を中心とした大規模な事業投資が必要と判断し、投資を開始しております。

当第2四半期会計期間においては、広告事業に関しコロナ特需の一巡化による反動が一部取引先にて発生しております。また、AI(人工知能)を活用した新たな広告配信プラットフォームの開発を本格化させるとともに、引き続き、積極的な人員拡充や組織体制の強化など、働く環境への投資を実施しております。企業成長の源泉である「人材」の力を最大限に引き出せるような人的資本経営の実現を通じ、企業価値向上につなげてまいります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,119,933千円(前年同期比14.9%減)、営業損失25,131千円(前年同期は1,045千円の営業利益)、経常損失25,490千円(前年同期は9,564千円の経常利益)、四半期純損失23,265千円(前年同期は8,846千円の四半期純利益)となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (広告事業)

広告事業の売上高は1,100,055千円(前年同期比15.7%減)、セグメント利益は37,585千円(前年同期比39.6%減)となりました。

アドネットワーク「ADroute」は、コロナ特需の反動による一部取引先の予算減少などがありました。運用代行サービス「トレーディングデスク」は、前事業年度に売掛債権管理を見直したことによる影響もあり売上高が減少しております。また、システム等の受託開発、運営保守では、取引先から継続受注しております。

なお、当事業年度より、広告事業においては、中長期的な事業成長のための大規模なシステム開発を含む先行投資が発生しております。

#### (その他事業)

その他事業の売上高は19,877千円(前年同期比94.1%増)、セグメント損失は13,969千円(前年同期は5,718千円のセグメント損失)となりました。

ブロックチェーンゲーム関連では、国内初NFTを活用したJリーグオフィシャルライセンスゲーム「Jリーグトレーディングサッカー(略称:トレサカJリーグ)」について、2023年1月26日付で正式版をリリースし、Free to Play and Earn(無料ではじめて楽しみながら稼ぐ)のコンセプトのもと、本ゲームの最大の特徴であるNFT化機能に関しても2023年2月15日付で実装しました。今後もJリーグやサッカーを楽しむことが資産になる世界を目指してまいります。

なお、本ゲームは、公益社団法人日本プロサッカーリーグとのIPに係るライセンス契約主体が、2023年シーズン以降、株式会社OneSportsから株式会社プレイシंकに変更となりました。

また、積雪深自動モニタリングシステム「YUKIMI」では、新規自治体を含む複数自治体にて今冬(2022年12月～2023年3月)においてもサービス提供を実施いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (財政状態)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前期末に比べて65,560千円減少し、1,494,952千円となりました。これは、主に無形固定資産が49,346千円増加したものの、現金及び預金が88,957千円減少、売掛金が9,163千円減少、投資その他の資産が10,369千円減少したこと等によるものであります。

負債合計は、前期末に比べて57,847千円減少し、567,535千円となりました。これは、主に買掛金が5,171千円減少、未払法人税等が6,780千円減少、賞与引当金が14,456千円減少、転換社債型新株予約権付社債が22,290千円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前期末に比べて7,713千円減少し、927,417千円となりました。これは、主に転換社債型新株予約権付社債の転換により資本金及び資本準備金がそれぞれ11,145千円増加したものの、その他有価証券評価差額金が6,738千円減少、四半期純損失を23,265千円計上したこと等によるものであります。なお、2023年2月の欠損填補を目的とした減資により、資本金が167,178千円減少し、資本剰余金が66,548千円、利益剰余金が100,629千円増加しております。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べて88,957千円減少し、1,151,140千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内訳は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは47,776千円の減少となりました。これは、主に売上債権の減少9,163千円、未払金の増加4,598千円等があったものの、税引前四半期純損失22,790千円の計上、賞与引当金の減少14,456千円、仕入債務の減少5,171千円等があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは41,181千円の減少となりました。これは、主に長期貸付金の回収による収入2,700千円があったものの、無形固定資産の取得による支出43,881千円があったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローはありませんでした。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年11月10日に公表した業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,240,097	1,151,140
売掛金	198,450	189,287
貯蔵品	3,882	3,902
その他	33,595	28,495
流動資産合計	1,476,025	1,372,824
固定資産		
有形固定資産	13,766	12,431
無形固定資産	1,082	50,428
投資その他の資産	69,638	59,268
固定資産合計	84,487	122,128
資産合計	1,560,513	1,494,952
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	175,144	169,972
未払法人税等	7,255	475
賞与引当金	16,340	1,883
その他	47,705	38,558
流動負債合計	246,446	210,889
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	378,936	356,646
固定負債合計	378,936	356,646
負債合計	625,383	567,535
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	217,178	61,145
資本剰余金	808,147	885,841
利益剰余金	△100,629	△23,265
自己株式	△25	△25
株主資本合計	924,670	923,696
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,485	△2,253
評価・換算差額等合計	4,485	△2,253
新株予約権	5,973	5,973
純資産合計	935,130	927,417
負債純資産合計	1,560,513	1,494,952

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)
売上高	1,315,374	1,119,933
売上原価	1,162,770	991,610
売上総利益	152,604	128,323
販売費及び一般管理費	151,559	153,455
営業利益又は営業損失(△)	1,045	△25,131
営業外収益		
受取利息	743	348
投資事業組合運用益	2,400	—
暗号資産評価益	5,781	2,549
その他	330	593
営業外収益合計	9,256	3,491
営業外費用		
投資事業組合運用損	—	3,631
新株発行費	714	196
その他	22	21
営業外費用合計	736	3,849
経常利益又は経常損失(△)	9,564	△25,490
特別利益		
貸倒引当金戻入額	450	2,700
特別利益合計	450	2,700
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	10,014	△22,790
法人税、住民税及び事業税	1,168	475
法人税等合計	1,168	475
四半期純利益又は四半期純損失(△)	8,846	△23,265

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	10,014	△22,790
減価償却費	2,100	1,799
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,117	△14,456
受取利息及び受取配当金	△743	△348
貸倒引当金戻入額	△450	△2,700
暗号資産評価損益 (△は益)	△5,781	△2,549
売上債権の増減額 (△は増加)	△12,885	9,163
棚卸資産の増減額 (△は増加)	652	△20
暗号資産の増減額 (△は増加)	127	△8
前渡金の増減額 (△は増加)	△155,933	—
仕入債務の増減額 (△は減少)	6,082	△5,171
未払金の増減額 (△は減少)	778	4,598
その他	16	△21,311
小計	△157,140	△53,794
利息及び配当金の受取額	743	348
法人税等の支払額	△5,472	△475
法人税等の還付額	—	6,144
営業活動によるキャッシュ・フロー	△161,868	△47,776
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
無形固定資産の取得による支出	—	△43,881
長期貸付金の回収による収入	450	2,700
出資金の分配による収入	4,311	—
敷金保証金の差入による支出	△594	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,167	△41,181
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△157,701	△88,957
現金及び現金同等物の期首残高	1,138,600	1,240,097
現金及び現金同等物の四半期末残高	980,899	1,151,140



(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月23日開催の定時株主総会において、欠損の填補を目的とする無償減資について決議し、当該決議について、2023年2月28日に効力が発生しております。この結果、当第2四半期会計期間において、資本金が167,178千円減少し、その他資本剰余金に振り替えました。また、資本金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金の金額100,629千円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補いたしました。

また、第1四半期会計期間において、第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の転換により、資本金が11,145千円、資本準備金が11,145千円増加しております。

この結果、当第2四半期会計期間末において資本金が61,145千円、資本剰余金が885,841千円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	広告事業	その他	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,305,135	10,239	1,315,374	—	1,315,374
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,305,135	10,239	1,315,374	—	1,315,374
セグメント利益又は損失(△)	62,216	△5,718	56,498	△55,453	1,045

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△55,453千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	広告事業	その他	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,100,055	19,877	1,119,933	—	1,119,933
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,100,055	19,877	1,119,933	—	1,119,933
セグメント利益又は損失(△)	37,585	△13,969	23,615	△48,747	△25,131

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△48,747千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。